

政策ウオッチ

政調復活論議

「民主らしさ」取り戻す試金石

民主党の新人国会議員を取材して愕然とさせられることがある。

議員会館の本棚がガラガラ（中身の無いファイルを置いてごまかすケースも）、事務所にいつも電話番の秘書しかいない——そんな議員が結構いるのだ。

「天下国家を語りたい気持ちは分かる。だけど有権者と信頼関係を築いていないと資格はない」。

そんな小沢一郎幹事長の教えで、政策を語る前にまず選挙区を回るということかもしれない。だが、現在の民主党からは、かつての青

臭い議論ばかりをしていた「民主らしさ」は感じられない。

党内では今、党政調調査会（政調）を復活させようという運動が起きている。もちろん政局的な意味合いもあるが、政策論議が乏しくなった党の現状に対する危機

がそもそもの発端だ。小沢幹事長は政調の復活には否定的だが、議員全員が参加して「天下国家」を語る場がないというのは政党にとって致命的ではないだろうか。

民主党に政調が復活するかどうかは、民主党が「民主らしさ」を取り戻せるかの試金石になる。

（山下剛）